

## 審査の結果の要旨

論文提出者氏名 西田 徹

### 地域空間における環境行動的研究

本論文は、個人の環境行動研究的視点から、地域空間の価値や意味が個人のどのような働きかけによって生まれ持続しているのかを探ることを目的としている。いわゆるまちづくりの現状は、住民主体とは名ばかりの行政主導のモノづくりや組織づくりに終始し、環境が持続するシステムが伴っていないという問題意識のもとに、まちづくりの本来のあり方を捉え直そうと試みたものである。

本論文は全6章からなる。

第1章では研究の背景と目的について述べている。本論文は、環境に対する個人の積極的な働きかけを「カスタマイズ」、持続させるシステムを「メンテナンス」と呼び、それらが居住環境の整備・更新に果たす役割と可能性を探るもので、次の5点を特徴としている。(1)都市をトータルな環境として捉え、人間と環境とは不可分一体と捉えること。(2)個人と環境との関係を分析の単位にし、個人から見た環境の使いこなしを記述すること。(3)生活の組み立て方と同時に、生活を維持することや拡張のきっかけについて分析すること。(4)地域空間にひろがる可能性をもつコミュニティについて扱うこと。(5)属性の違いによる環境行動の特徴を見ること。

第2章では調査対象と方法について述べている。まちに対して積極的にカスタマイズしメンテナンスすることで生活基盤を築く「独身社会人」、育児者として地域との関係を新しくカスタマイズしメンテナンスしている「子育て中の母親」、新しく環境をカスタマイズする「大学生」、既に構築した環境をメンテナンスしている「高齢者」、新しいコミュニティの形態をつくりだす「犬の散歩者」の5属性を調査対象者とし、日常生活行動圏がほぼ収まる地域空間として新潟市を調査対象地に設定している。

過去の活動を白地図上に記述していく「環境行動マッピング調査」、1ヶ月間の外出行動を毎日白地図と予定表に記入していく「行動記録マッピング調査」を基本的な調査方法とし、更にアンケートにより個人のアクセスポイントにおける環境との関係を分析した。

第3章では個人の環境行動の記述について述べている。外出行動の記述により個人がストックしている場所が分かる。個人にとっての場所の意味や関係を見るために、独身社会人のリフレッシュ活動に着目し記述すると、個人の外出行動を生き生きと描け、ストックの場所が複数の活動欲求を満たしていることが分かる。また一ヶ月間の行動記録調査から予定外の行動とストックとの関係が確認できた。環境行動マップは個人によって異なり、それぞれに見いだしている価値観は異なることも明らかにした。また、好きな場所や特色

のある場所について個人の記述を全て重ねると、地域空間に対する認識や評価はある程度共通することが分かり、環境の持つ価値を言語化できた。育児者では、出産前後のまちとの関係の変化、環境からの影響を見ることができた。

第4章では環境のカスタマイズについて、CSフォーマットによる分析を試みている。個人はアクセスポイントにおいて環境構成要素に対して積極的に働きかけ、居心地のいい環境をつくりあげていく。この働きかけを「カスタマイズ」とよび、カスタマイズで出来上がった様々な要素との関係を「スタンス」とよぶ。物的環境やサービス、他者、主人などの環境要素と自分との関係を線で結び、4つの事象に分けて描き、カスタマイズの方法やスタンスを視覚化する「CSフォーマット」を開発した。独身社会人では、各アクセスポイントにおいて、スタンスは利用者自身が決定し、スタンスをよりよくしていくために主にコミュニケーションによってカスタマイズを行っていることがわかった。カスタマイズは環境を自分の好みに組み立てる方法で、そのしやすさは一つの環境評価指標となる。育児者のカスタマイズの特徴は、子どもとのスタンスが変化することで、子どもが親元をはなれ、他の育児者の子どもと仲良くなり、それがきっかけでコミュニケーションが生まれることが多く、この様なコミュニケーションは匿名性の高い場所でおこることが多いことがわかった。

第5章では環境のメンテナンスについて述べている。自己や他者の多種多様なスタンスを内包しながら常に変化していく環境において、自己のスタンスを維持していくためには、更新された環境要素との関係も新たにし、自己のスタンスを最適化する「メンテナンス」が必要となる。メンテナンスをきっかけとして生活が拡張することもある。メンテナンスしている個人のストックは新潟市における居住環境のストックとなっている。それらは公共の施設だけでなく、店や民間の施設もあり、まちづくりにおいても重要な役割をはたしている。また、他者との関係を円滑にするためやメンテナンスの必要性から個人でルールやマナーを決めている場合がある。不特定多数の個人が共有しているルールは習慣やマナーとなり、質の高い居住環境の維持・更新に役立っているとした。

第6章ではまとめとして、環境に価値を与えているのは我々居住者の活動自体であり、環境の中に生み出された価値を常にメンテナンスし更新していくことこそが、よりよい環境と居住者の関係を生み出すと共に環境に多種多様な価値を内包させ、個人の環境への自由な定位を約束できるものといえるとしている。

以上のように本論文では、地域空間の価値や意味が個人のどの様な働きかけによって生まれ、持続しているのか、その生き生きした実態を探ることに成功した。またそのために試みた調査分析の方法の可能性を明らかにした。このような環境行動的研究は、住民一人一人がまちの主体になり、人々と都市環境との豊かな関係が持続されるような、本来のまちづくりを進め、豊かさを実感できる生活の質の向上につなげるためのものと位置づけられ、建築計画学の発展に大いなる寄与を行うものである。

よって本論文は博士（工学）の学位論文として合格と認められる。